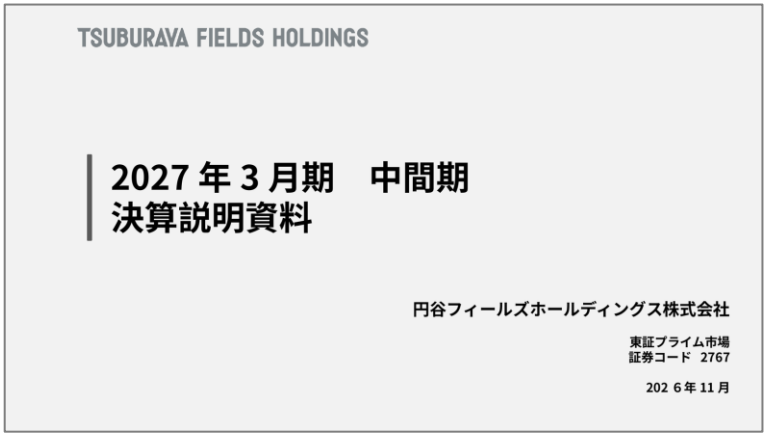
※本資料は、決算説明会で投影した資料の、一部を抜粋しております。

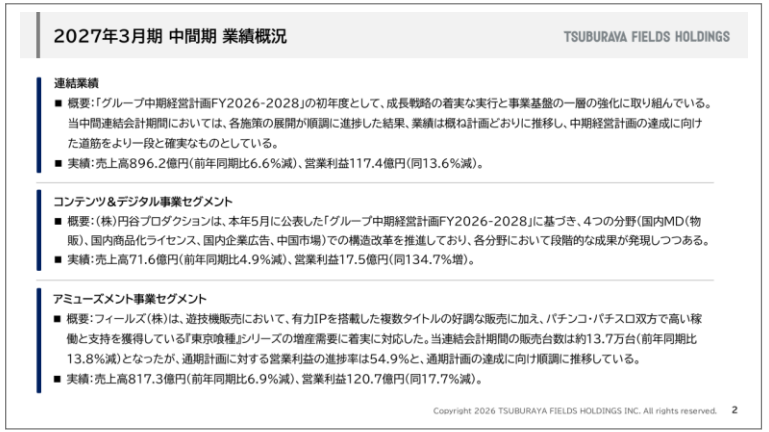

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

2027 年 3 月期　中間期
決算説明資料

円谷フィールズホールディングス株式会社

東証プライム市場
証券コード　2767

202 6年 11 月


2027年3月期 中間期 業績概況　TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

連結業績
- 概要：「グループ中期経営計画FY2026-2028」の初年度として、成長戦略の着実な実行と事業基盤の一層の強化に取り組んでいる。当中間連結会計期間においては、各施策の展開が順調に進捗した結果、業績は概ね計画どおりに推移し、中期経営計画の達成に向けた道筋をより一段と確実なものとしている。
- 実績：売上高896.2億円（前年同期比6.6%減）、営業利益117.4億円（同13.6%減）。

コンテンツ&デジタル事業セグメント
- 概要：（株）円谷プロダクションは、本年5月に公表した「グループ中期経営計画FY2026-2028」に基づき、4つの分野（国内MD（物販）、国内商品化ライセンス、国内企業広告、中国市場）での構造改革を推進しており、各分野において段階的な成果が発現しつつある。
- 実績：売上高71.6億円（前年同期比4.9%減）、営業利益17.5億円（同134.7%増）。

アミューズメント事業セグメント
- 概要：フィールズ（株）は、遊技機販売において、有力IPを搭載した複数タイトルの好調な販売に加え、パチンコ・パチスロ双方で高い稼働と支持を獲得している『東京喰種』シリーズの増産需要に着実に対応した。当連結会計期間の販売台数は約13.7万台（前年同期比13.8%減）となったが、通期計画に対する営業利益の進捗率は54.9%と、通期計画の達成に向け順調に推移している。
- 実績：売上高817.3億円（前年同期比6.9%減）、営業利益120.7億円（同17.7%減）。

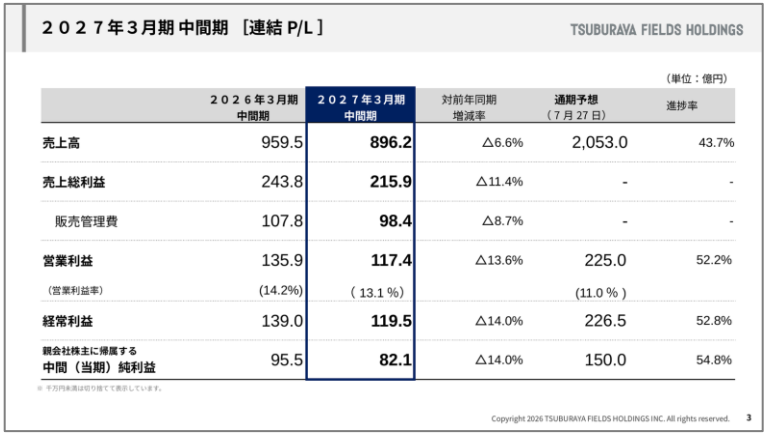
Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 2

当中間連結会計期間は、2026年5月に発表した「グループ中期経営計画FY2026-2028」の初年度として、成長戦略の着実な実行と事業基盤の一層の強化に取り組んだ。各施策の展開が順調に進捗した結果、業績は概ね計画どおりに推移し、中期経営計画の達成に向けた道筋をより一段と確実なものとしている。連結業績としては、売上高896.2億円（前年同期比6.6%減）、営業利益117.4億円（同13.6%減）となった。

コンテンツ&デジタル事業セグメントでは、中核である円谷プロダクションにおいて、4つの分野（国内MD（物販）、国内商品化ライセンス、国内企業広告、中国市場）での構造改革を推進しており、各分野において段階的な成果が発現しつつある。その結果、円谷プロダクション単体の業績は、売上高47.4億円（同0.2%増）、営業利益15.6億円（同330.5%増）と大幅な増益を達成した。当セグメント全体の実績としては、売上高71.6億円（前年同期比4.9%減）、営業利益17.5億円（同134.7%増）となった。

アミューズメント事業セグメントでは、フィールズにおいて、有力IPを搭載した複数タイトルの好調な販売に加え、パチンコ・パチスロ双方で高い稼働と支持を獲得している『東京喰種』シリーズの増産需要に着実に対応した。販売台数は約13.7万台（前年同期比13.8%減）となったが、通期計画に対する営業利益の進捗率は54.9%と順調に推移している。当セグメントの業績は、売上高817.3億円（前年同期比6.9%減）、営業利益120.7億円（同17.7%減）となった。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.



２０２７年３月期 中間期 ［連結 P/L］

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

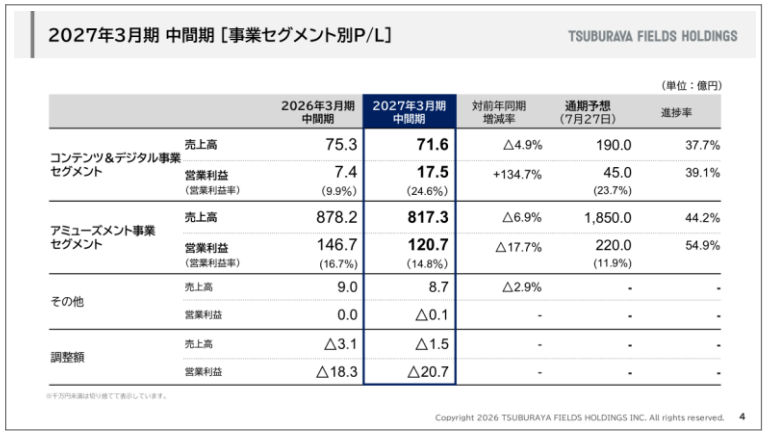
（単位：億円）

	２０２６年３月期 中間期	２０２７年３月期 中間期	対前年同期 増減率	通期予想 （７月２７日）	進捗率
売上高	959.5	**896.2**	△6.6%	2,053.0	43.7%
売上総利益	243.8	**215.9**	△11.4%	-	-
販売管理費	107.8	**98.4**	△8.7%	-	-
営業利益	135.9	**117.4**	△13.6%	225.0	52.2%
（営業利益率）	(14.2%)	(13.1 %)		(11.0 %)	
経常利益	139.0	**119.5**	△14.0%	226.5	52.8%
親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益	95.5	**82.1**	△14.0%	150.0	54.8%

※ 千万円未満は切り捨てて表示しています。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 3

当中間期の連結業績は、売上高896.2億円（前年同期比6.6%減）、売上総利益215.9億円（同11.4%減）、販売管理費98.4億円（同8.7%減）、営業利益117.4億円（同13.6%減）となった。また、経常利益は119.5億円（同14.0%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は82.1億円（同14.0%減）となった。7月27日付けで修正した通期業績予想に対する進捗率は、売上高43.7%、営業利益52.2%、中間純利益54.8%と、通期計画の達成に向けて順調に推移している。



2027年3月期 中間期［事業セグメント別P/L］

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

（単位：億円）

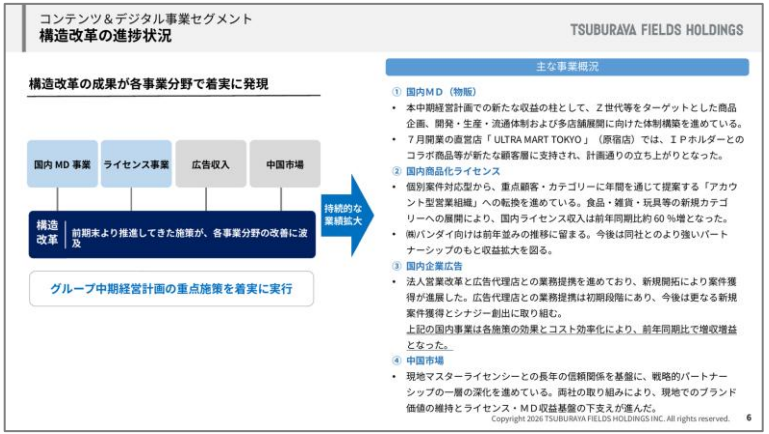
		2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期 増減率	通期予想 （7月27日）	進捗率
コンテンツ＆デジタル事業セグメント	売上高	75.3	**71.6**	△4.9%	190.0	37.7%
	営業利益 （営業利益率）	7.4 (9.9%)	**17.5** (24.6%)	+134.7%	45.0 (23.7%)	39.1%
アミューズメント事業セグメント	売上高	878.2	**817.3**	△6.9%	1,850.0	44.2%
	営業利益 （営業利益率）	146.7 (16.7%)	**120.7** (14.8%)	△17.7%	220.0 (11.9%)	54.9%
その他	売上高	9.0	8.7	△2.9%	-	-
	営業利益	0.0	△0.1	-	-	-
調整額	売上高	△3.1	△1.5	-	-	-
	営業利益	△18.3	△20.7	-	-	-

※千万円未満は切り捨てて表示しています。

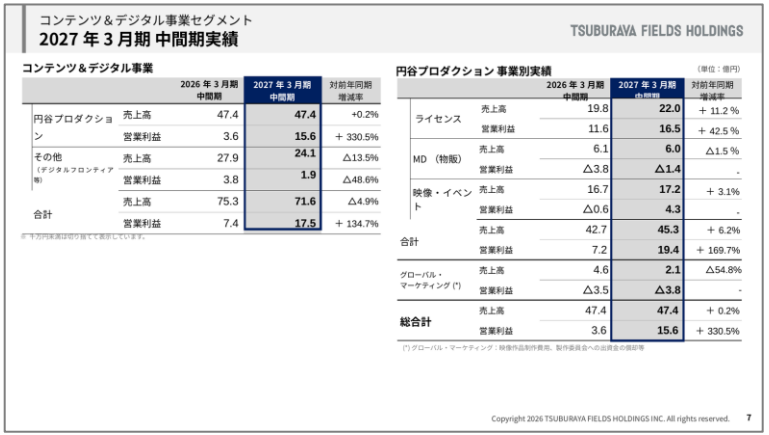
Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 4

事業セグメント別の実績詳細である。コンテンツ＆デジタル事業は、売上高71.6億円（前年同期比4.9%減）、営業利益17.5億円（同134.7%増）となり、営業利益率は前年同期の9.9%から24.6%へと大きく改善した。アミューズメント事業は、売上高817.3億円（同6.9%減）、営業利益120.7億円（同17.7%減）となったが、通期予想営業利益220億円に対する進捗率は54.9%と順調な進捗となっている。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.

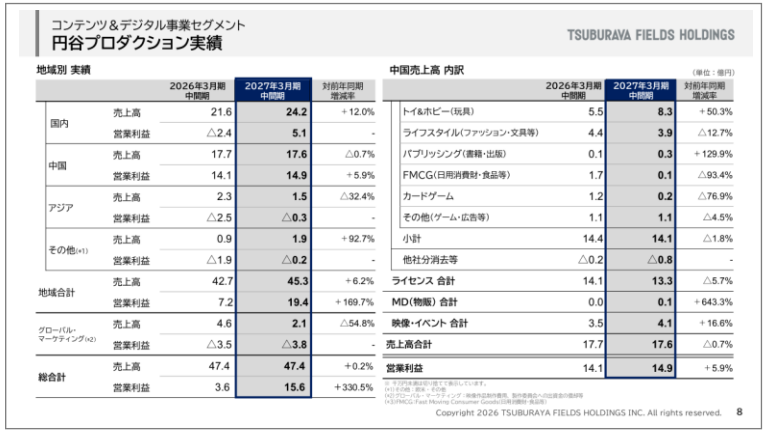


コンテンツ＆デジタル事業では、前期末より推進してきた構造改革の成果が各事業分野で着実に発現している。国内MD（物販）では、7月開業の直営店「ULTRA MART TOKYO」（原宿店）でIPホルダーとのコラボ商品等が新たな顧客層に支持され、計画通りの立ち上がりとなった。国内商品化ライセンスでは、「アカウント型営業組織」への転換と食品・雑貨・玩具等の新規カテゴリーへの展開により、国内ライセンス収入は前年同期比約60%増となった。国内企業広告では法人営業改革と広告代理店との業務提携により新規案件の獲得が進展し、中国市場では現地マスターライセンシーとの戦略的パートナーシップの深化により、ライセンス・MD収益基盤の下支えが進んだ。



円谷プロダクションの事業別実績では、ライセンス売上が22.0億円（前年同期比11.2%増）、営業利益が16.5億円（同42.5%増）と伸長した。MD（物販）は売上高6.0億円（同1.5%減）ながら営業損失は1.4億円へ縮小し、映像・イベントは売上高17.2億円（同3.1%増）、営業利益4.3億円と黒字化した。これらにより、円谷プロダクション全体では売上高47.4億円（同0.2%増）、営業利益15.6億円（同330.5%増）と大幅な増益となり、セグメント増益を牽引した。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.



コンテンツ＆デジタル事業セグメント
円谷プロダクション実績

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

地域別 実績

		2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期増減率
国内	売上高	21.6	24.2	+12.0%
	営業利益	△2.4	5.1	-
中国	売上高	17.7	17.6	△0.7%
	営業利益	14.1	14.9	+5.9%
アジア	売上高	2.3	1.5	△32.4%
	営業利益	△2.5	△0.3	-
その他(※1)	売上高	0.9	1.9	+92.7%
	営業利益	△1.9	△0.2	-
地域合計	売上高	42.7	45.3	+6.2%
	営業利益	7.2	19.4	+169.7%
グローバル・マーケティング(※2)	売上高	4.6	2.1	△54.8%
	営業利益	△3.5	△3.8	-
総合計	売上高	47.4	47.4	+0.2%
	営業利益	3.6	15.6	+330.5%

中国売上高 内訳

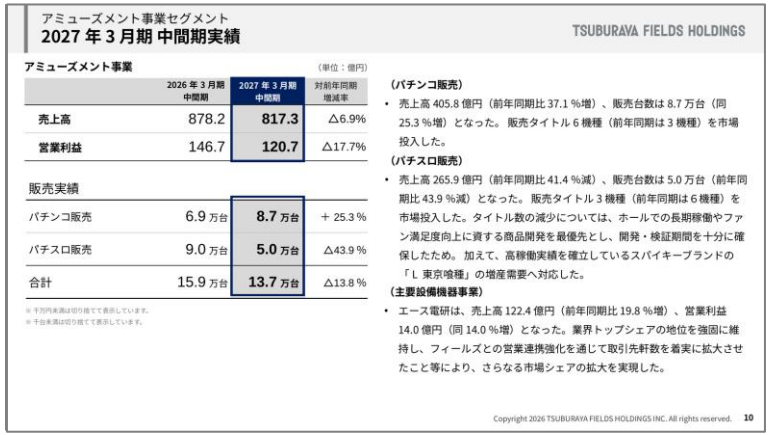
（単位：億円）

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期増減率
トイ&ホビー（玩具）	5.5	8.3	+50.3%
ライフスタイル（ファッション・文具等）	4.4	3.9	△12.7%
パブリッシング（書籍・出版）	0.1	0.3	+129.9%
FMCG（日用消費財・食品等）	1.7	0.1	△93.4%
カードゲーム	1.2	0.2	△76.9%
その他（ゲーム・広告等）	1.1	1.1	△4.5%
小計	14.4	14.1	△1.8%
他社分消去等	△0.2	△0.8	-
ライセンス 合計	14.1	13.3	△5.7%
MD（物販）合計	0.0	0.1	+643.3%
映像・イベント 合計	3.5	4.1	+16.6%
売上高合計	17.7	17.6	△0.7%
営業利益	14.1	14.9	+5.9%

※千万円未満は切り捨てて表示しています。
(※1)その他（韓国・その他）
(※2)グローバル・マーケティング：映像作品制作費用、製作委員会への出資金の回収等
(※3)FMCG:Fast Moving Consumer Goods(日用消耗品・食品等)

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 8

円谷プロダクションの地域別実績では、国内売上は24.2億円（前年同期比12.0%増）、営業利益は5.1億円と黒字転換した。中国売上は17.6億円（同0.7%減）と前年並みながら、営業利益は14.9億円（同5.9%増）と増益を確保した。中国のライセンス内訳では、トイ＆ホビー（玩具）が8.3億円（同50.3%増）と大きく伸長した一方、FMCGやカードゲームは減少した。また、映像・イベントは4.1億円（同16.6%増）と伸長している。



アミューズメント事業セグメント
2027 年 3 月期 中間期実績

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

アミューズメント事業

（単位：億円）

	2026 年 3 月期 中間期	2027 年 3 月期 中間期	対前年同期増減率
売上高	878.2	817.3	△6.9%
営業利益	146.7	120.7	△17.7%

販売実績

パチンコ販売	6.9 万台	8.7 万台	+ 25.3 %
パチスロ販売	9.0 万台	5.0 万台	△43.9 %
合計	15.9 万台	13.7 万台	△13.8 %

※千万円未満は切り捨てて表示しています。
※千台未満は切り捨てて表示しています。

（パチンコ販売）
- 売上高 405.8 億円（前年同期比 37.1 %増）、販売台数は 8.7 万台（同 25.3 %増）となった。販売タイトル 6 機種（前年同期は 3 機種）を市場投入した。

（パチスロ販売）
- 売上高 265.9 億円（前年同期比 41.4 %減）、販売台数は 5.0 万台（前年同期比 43.9 %減）となった。販売タイトル 3 機種（前年同期は 6 機種）を市場投入した。タイトル数の減少については、ホールでの長期稼働やファン満足度向上に資する商品開発を最優先とし、開発・検証期間を十分に確保したため。加えて、高稼働実績を確立しているスパイキーブランドの「L 東京喰種」の増産需要へ対応した。

（主要設備機器事業）
- エース電研は、売上高 122.4 億円（前年同期比 19.8 %増）、営業利益 14.0 億円（同 14.0 %増）となった。業界トップシェアの地位を強固に維持し、フィールズとの営業連携強化を通じて取引先軒数を着実に拡大させたこと等により、さらなる市場シェアの拡大を実現した。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 10

アミューズメント事業の中間期実績は、売上高817.3億円（前年同期比6.9%減）、営業利益120.7億円（同17.7%減）となった。
パチンコは6機種を市場投入し、売上高405.8億円（同37.1%増）、販売台数8.7万台（同25.3%増）と伸長した。
パチスロは、ホールでの長期稼働やファン満足度向上に資する商品開発を優先して開発・検証期間を十分に確保したため3機種の投入にとどまり、販売台数は5.0万台（同43.9%減）となったが、高稼働の『L 東京喰種』の増産需要に対応した。
また、エース電研は売上高122.4億円（同19.8%増）、営業利益14.0億円（同14.0%増）と、市場シェアのさらなる拡大を実現した。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.

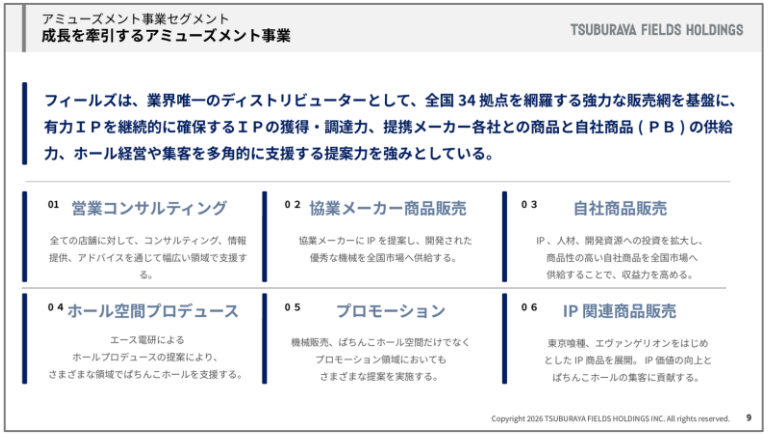


中間期の主なパチンコ販売機種として、第1四半期の『P ウルトラマンメビウス デカヘソ 319』、『e バイオハザード6』、『e 東京喰種 超デカ 超一撃 ver.』に続き、第2四半期には新規タイトルの『e 無職転生 ～異世界行ったら本気だす～』、『e EDENS ZERO ～究極 LT～』、『e アサルトリリィ』を市場に投入した。パチスロでは第1四半期の『Lパチスロ 機動戦士ガンダム ユニコーン 覚醒 DRIVE』に続き、第2四半期には『L ULTRAMAN 最終決戦』、『スマスロ ストリートファイター6』を投入したほか、『L 東京喰種』の増産対応を継続した。第2四半期の販売台数はパチンコ4.4万台、パチスロ2.5万台の計7.0万台となり、中間期累計では13.7万台となった。

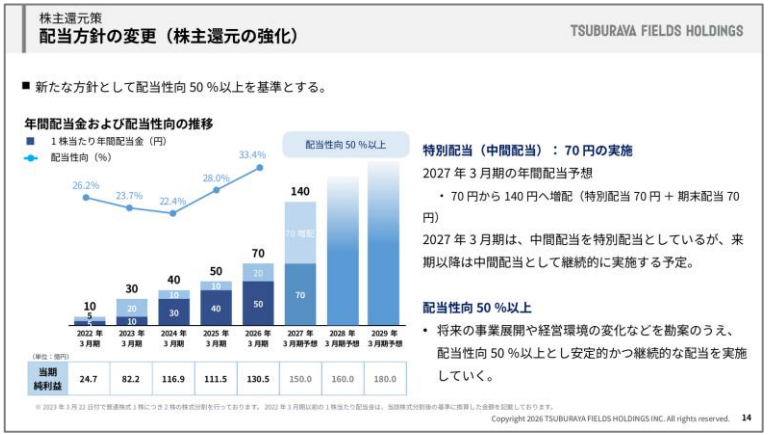


第3四半期以降に販売を予定しているパチンコ機種として、『SMART-PACHINKO GANTZ』、『e ゴジラ対エヴァンゲリオン～WIND BURST～』、『P 新世紀エヴァンゲリオン -319 RED-』等のシリーズ新作を順次市場へ投入していく計画である。
また、パチスロにおいても、『スマスロ モンスターハンターライズ：サンブレイク』、『Lパチスロ ゴジラ対エヴァンゲリオン 2』のシリーズ新作に加え、新規タイトルとして『L アサルトリリィ』、『L SYNDUALITY Noir』を投入するほか、『L 東京喰種』の増産にも引き続き対応し、充実したラインナップによる市場活性化を図る。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.

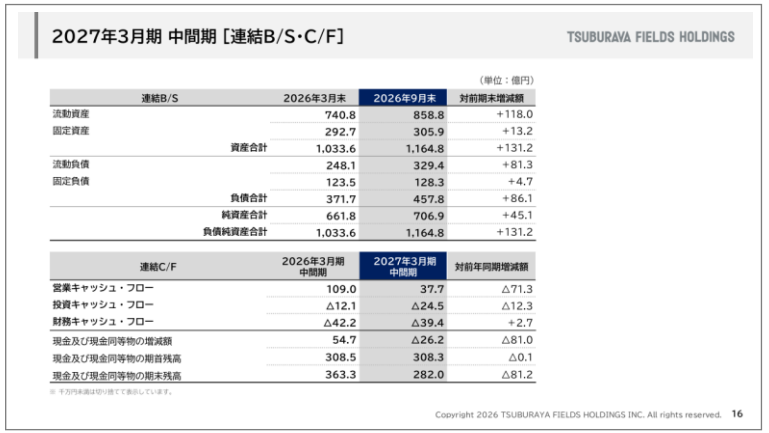


フィールズは、業界唯一のディストリビューターとして、全国34拠点を網羅する強力な販売網を基盤に、有力IPを継続的に確保するIPの獲得･調達力、提携メーカー各社との商品と自社商品（PB）の供給力、ホール経営や集客を多角的に支援する提案力を強みとしている。営業コンサルティング、協業メーカー商品販売、自社商品販売に加え、エース電研によるホール空間プロデュースや、東京喰種やエヴァンゲリオンをはじめとしたIP関連商品の展開を通じて、IP価値の向上とパチンコホールの集客に貢献していく方針である。



株主還元の強化として配当方針を変更し、新たに配当性向50%以上を基準とする。将来の事業展開や経営環境の変化などを勘案のうえ、安定的かつ継続的な配当を実施していく。2027年3月期は中間配当として特別配当70円を実施し、期末配当予想70円と合わせて、年間配当は1株当たり140円（前期70円）への大幅な増配を見込んでいる。なお、来期以降は中間配当を継続的に実施する予定である。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.



2027年3月期 中間期 [連結B/S･C/F]

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

（単位：億円）

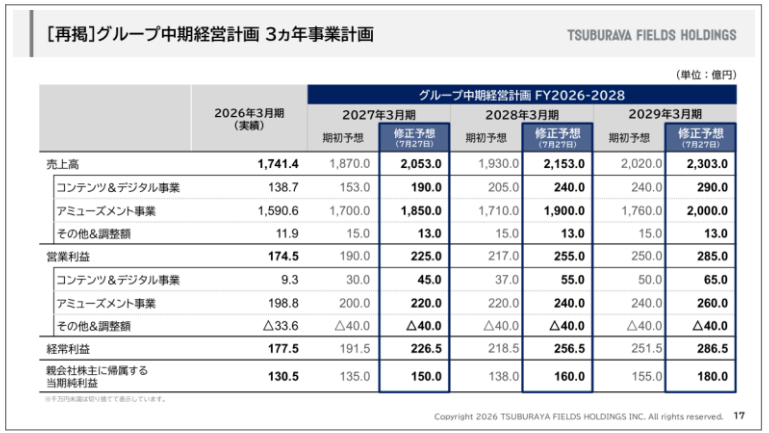
連結B/S	2026年3月末	2026年9月末	対前期末増減額
流動資産	740.8	858.8	+118.0
固定資産	292.7	305.9	+13.2
資産合計	1,033.6	1,164.8	+131.2
流動負債	248.1	329.4	+81.3
固定負債	123.5	128.3	+4.7
負債合計	371.7	457.8	+86.1
純資産合計	661.8	706.9	+45.1
負債純資産合計	1,033.6	1,164.8	+131.2

連結C/F	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期増減額
営業キャッシュ・フロー	109.0	37.7	△71.3
投資キャッシュ・フロー	△12.1	△24.5	△12.3
財務キャッシュ・フロー	△42.2	△39.4	+2.7
現金及び現金同等物の増減額	54.7	△26.2	△81.0
現金及び現金同等物の期首残高	308.5	308.3	△0.1
現金及び現金同等物の期末残高	363.3	282.0	△81.2

※ 千万円未満は切り捨てて表示しています。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 16

2026年9月末時点の流動資産は858.8億円、固定資産は305.9億円で、資産合計は1,164.8億円（前期末比131.2億円増）となった。負債合計は457.8億円（同86.1億円増）、純資産合計は706.9億円（同45.1億円増）となり、引き続き強固な財務基盤を維持している。キャッシュ・フローについては、営業CFが37.7億円（前年同期比71.3億円減）、投資CFが△24.5億円、財務CFが△39.4億円となり、現金及び現金同等物の中間期末残高は282.0億円となった。



[再掲]グループ中期経営計画 3ヵ年事業計画

TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS

（単位：億円）

	2026年3月期（実績）	グループ中期経営計画 FY2026-2028					
		2027年3月期		2028年3月期		2029年3月期	
		期初予想	修正予想（7月27日）	期初予想	修正予想（7月27日）	期初予想	修正予想（7月27日）
売上高	**1,741.4**	1,870.0	**2,053.0**	1,930.0	**2,153.0**	2,020.0	**2,303.0**
コンテンツ＆デジタル事業	138.7	153.0	**190.0**	205.0	**240.0**	240.0	**290.0**
アミューズメント事業	1,590.6	1,700.0	**1,850.0**	1,710.0	**1,900.0**	1,760.0	**2,000.0**
その他＆調整額	11.9	15.0	**13.0**	15.0	**13.0**	15.0	**13.0**
営業利益	**174.5**	190.0	**225.0**	217.0	**255.0**	250.0	**285.0**
コンテンツ＆デジタル事業	9.3	30.0	**45.0**	37.0	**55.0**	50.0	**65.0**
アミューズメント事業	198.8	200.0	**220.0**	220.0	**240.0**	240.0	**260.0**
その他＆調整額	△33.6	△40.0	**△40.0**	△40.0	**△40.0**	△40.0	**△40.0**
経常利益	**177.5**	191.5	**226.5**	218.5	**256.5**	251.5	**286.5**
親会社株主に帰属する当期純利益	**130.5**	135.0	**150.0**	138.0	**160.0**	155.0	**180.0**

※千万円未満は切り捨てて表示しています。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved. 17

グループ中期経営計画の3ヵ年事業計画（7月27日修正）を再掲する。2027年3月期は売上高2,053.0億円、営業利益225.0億円を見込み、最終年度である2029年3月期には売上高2,303.0億円、営業利益285.0億円（コンテンツ＆デジタル事業65.0億円、アミューズメント事業260.0億円）を目指す。中間期の業績は概ね計画どおりに推移しており、引き続き中期経営計画の達成に向けて各施策を着実に推進していく。

Copyright 2026 TSUBURAYA FIELDS HOLDINGS INC. All rights reserved.